企画展「わたしたちのくらしとごみ」基本計画書

**１．企画展開催目的**

**１－１．目的**

　本企画展は、時代やくらしとともに変わる「ごみ」について、くらしの変化のなかでごみが増えたことに対し行政がどう対応してきたかを振り返るとともに、「ごみ」に関する今日的課題があるなかで、各個人のくらしのなかで「何ができるのか」を感じてもらい、生活行動に反映してもらえるような展示を行う。

　特に、四日市市の広報誌である広報よっかいちや、市の発行する小学校３・４年生向けの副読本「のびゆく四日市」を軸に市の環境・清掃行政の取り組みについて振り返りつつ、来館者の生活に即した映像やハンズオン展示を活用し、「自分の生活の中でごみを減らす取り組みをやってみよう」という自発的な気付きに繋げることで、持続可能な開発目標（SDGs）へ誘う。

　対象は、四日市市民のうちごみ問題を学ぶ小学4年生から大人までを想定する。

なお、館内は注意書きのないものについてはすべて撮影可とする。

**１－２．コーナー概要**

1章　ごみってなに？

貝塚など、現代の視点から見ると歴史的な価値のあるごみの例を出し、「ごみ」の定義が時代に沿って変化していることを解説する。ものを無駄にせず、ごみの排出が少なかった江戸時代のくらしを解説し、現代のくらしでも通用することがあることを理解してもらう。

2章　昭和初期

当時の広報誌などを元に、四日市市の清掃にかかるインフラ整備や、ごみを捨てる市民の意識の変化を追う。「もったいない」という、ものを大切にする考え方が現代のフードロスや３Ｒの問題に通じることを示す。物資が不足した戦時中の事項に関しても取り扱う。

3章　高度経済成長期と大量消費社会の到来～本市におけるごみ問題の取り組みの歴史～

広報よっかいちと市内小学生向け副読本「のびゆく四日市」で本市のごみの歴史を振り返る。また、四日市公害と環境未来館の常設展示と時間軸を合わせ、当時燃えないごみであったプラスチックやビニールなどの石油化学製品の普及と、大量生産・大量消費の時代の到来を解説する。ごみ焼却にともなうばい煙（けむり、すす）問題や埋立地不足の問題にも言及する。

4章　現在のごみ処理

四日市市クリーンセンターの資料を用い、施設・パッカー車の紹介、収集方法の変遷等の説明を通して、本市が目指す循環型社会の取り組みとして、リサイクルの仕方やごみの分別の仕方が変化したことを写真やハンズオン展示などで説明する。

5章　ごみの今日的課題はなんだろう？

気候やくらしの変化に伴って今日的課題として発生している諸課題のうち、特に海洋プラスチックごみや災害ごみの問題について解説する。例えば、実際のマイクロプラスチックの展示やその分析、魚がマイクロプラスチックを含む小魚を食べる食物連鎖と人体への影響、令和元年東日本台風（台風１９号）で発生した災害ごみなど地球環境が変化しているなかで起こっていることを紹介する。

（以上1～5章展示では事実や歴史的変遷の例示を行い、6章では来館者が今、できることはないか、気付きを促す展示とする）

6章　今、私たちにできること（「MOTTAINAI」から「未来」へ）

自分の身近な生活の中で活かすことができ、くらしのなかのちょっとした心がけで無理なく無駄なく生きつつ、ごみを減らす。食べるという視点から日常のちょっとした取り組みが循環型社会の実現、SDGｓといった視点に繋がることを提案する（キーワードとしてはフードロスやローリングストック、クールチョイスなどがあげられる）。

約半世紀前の歴史を振り返り、現代の私たちが未来に豊かな環境を引き継ぐために行き過ぎた行動をとっていないか、立ち止まって考えることができる展示内容としたい。例えば、プラスチックやビニールが、決して害悪ではなく、画期的で使いやすい素材であり、処理範囲能力を超えないよう適切に処理することが大切であるように、産業発展の先にある生活の便利さをすべて否定せず、一人一人が先を見据えた行動をとることが重要であることを自覚できるようにしたい。

**２．展示物の制作・展示造作作業について**

制作にあたっては、会場であるそらんぽ四日市（博物館）4階特別展示室（594.798㎡）の50パーセント以上（内容に応じてラウンジ（93.674㎡）を使用してもよい）に可動壁・仮設壁を使用し展示エリアを活用すること。各展示物および動線は来場者が十分距離を保ちながら観覧できるよう配慮すること。また、本企画展の滞在時間はおおむね30分から1時間程度を想定し、来館者が満足して見学を終えることのできる展示物などを用意する。

展示物の内容については契約締結後、発注者と十分に協議し決定するものとする。

基本的に受注者のオリジナリティを尊重するが本基本計画ならびに仕様書に示す、本企画展の開催趣旨やねらいなどを踏まえた上、発注者の承認を得て制作すること。展示物などの制作にあたっては、発注者が所持しているデータについて必要があれば提供を行う。また、資料の借用・使用等に際し、必要な場合は発注者にて手続きを行うが、かかる費用については本委託業務の費用として積算すること。

1-2.コーナー概要に記載した6章の各コーナー内で基本的な制作点数（ア 全体テーマのパネル1枚、個別テーマのパネル2枚/イ 映像1点/ウ 展示物1点）は必ず制作することとし、すべてのコーナーで展示の一貫性を持たせること。基本的な制作点数を満たしていれば、コーナー間の展示物の増減や入れ替えは可能とする。なお、基本的な制作点数を満たしていれば、それらに加えて映像やプロジェクションマッピング、VRなど効果的な展示の提案をすることも可能とする。

ア 展示パネル・解説パネル・キャプション等の制作

本企画展の6コーナー全体でA0サイズ60枚の使用を想定しているが、来館者が理解をする上で視覚的に効果的なサイズや形に変更してもよい。

イ 展示映像等の制作

　　　本企画展の6コーナーにそれぞれ1映像（計6映像）、各120秒を想定している。一連のストーリー性があるものが望ましい。一般的な環境啓発にとどまらず、リサイクル処理過程を追うなど独自性のあるものとする。

　ウ　展示造作物の制作

　　　本企画展の6コーナー全体で10点を想定している。内容については下記の通り。小学4年生を対象に、視覚・聴覚あるいは行動などを伴い展示内容について理解を深めることができるような造作物を制作する。模型・バナー・撮影スポット・軽易なゲーム（クイズ、パズル、めくり展示など）を想定している。いずれも会期中の使用に耐えられる程度の頑丈なつくりとする。造作物は電気を使わないものとし、食品、生花、においのするもの、鋭利なものなど、市立博物館に持ち込めないものや展示品を破壊する可能性のあるものは使用しない。

　　（ウ 展示制作物の概要）

　　下図の「例」は発注者の想定例であり、必ずしもその通りにする必要はなく、自由に発想されたい。趣旨が一致していればテーマを変更してもよい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| コーナー | テーマ | 例 |
| 1章　ごみってなに？　 | ・江戸時代のエコの例 | 下肥取り、着物のリサイクル、助け合う長屋のくらしなど |
| 2章　昭和初期 | ・昭和前半のごみのことがわかるもの | 大八車、家庭用木製ごみ箱などの再現、当時の食卓と排出されたごみの再現など |
| 3章　高度経済成長期と大量消費社会の到来～本市におけるごみ問題の取り組みの歴史～ | ・高度経済成長期のごみの変化が分かるもの | 昭和初期の食卓と対比し、ごみが木・紙中心からプラスチック・ビニール中心に変化 |
|  | ・大量にごみが廃棄されていることが分かるもの | 本市南部埋め立て処分場の写真を大きなバナーに示したものなど |
| 4章　現在のごみ処理 | ・パッカー車の仕組みを説明したもの | 原寸大パッカー車断面図の前で清掃職員の作業服を着て写真を撮ることができるスポットなど |
| 5章　ごみの今日的課題はなんだろう？ | ・資源物の再利用がわかるもの | ペットボトルが衣料品に再生する過程をつぶさに追ったものなど |
|  | ・３Ｒを体感できるもの | 間伐材積み木、かんなくずプールなどリユース品を使用したものなど |
|  | ・フードロス問題を体感できるもの | 日本で1日あたり１人が捨てる量がわかる食品サンプルなど |
|  | ・ごみを捨てる上で、来館者が気付きを得ることができるもの | 水切りをしたゴミとそうでないゴミの重さの違いが分かるものなど |
| 6章　今、私たちにできること（「MOTTAINAI」から「未来」へ） | ・海洋プラスチックごみ問題をわかりやすく説明したもの | 家庭ごみが海洋に排出されるまでの過程、マイクロプラスチックが生物に与える影響など |